

聖書日課 『からし種』 2021.1.10-1.17

<p>1月10日 (日)</p> <p>箴言 1章</p>	<p>「主を畏れることは知恵の初め」(7節)。8節以降、「わが子よ」で始まる主の知恵は、「聞け(シェマー)、わが子よ」という言葉が用いられている。申命記6章4節の「聞け(シェマー)、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である」から始まる主の言葉に通じる言葉。ソロモンの箴言は、一ヶ月を通して主がわたしたちに直接語りかけてくれる知恵なのだろう。</p>
<p>11日 (月)</p> <p>箴言 2章</p>	<p>「それを尋ね・・・それを捜すなら／あなたは主を畏れることを悟り／神を知ることには到達するであろう」(4～5節)。神から与えられる知恵は、それを子どもの世代に語り伝えるだけでなく、その次に続く世代にも、共同体の中で伝えていくことが求められている。主の共同体の中で、神の知恵を共に祈り求める群れがわたしたちには与えられている。</p>
<p>12日 (火)</p> <p>箴言 3章</p>	<p>「主の知恵によって地の基は据えられ／主の英知によって天は設けられた。主の知識によって深淵は分かたれ／雲は滴って露を置く」(19～20節)。「万物は言(ことば)によって成った」(ヨハネ1・3)という新約聖書にもつながる。この地が創られた時から主の知恵がわたしたちに与えられていることを覚えたい。主の言葉をいただき続ける歩みができますように。</p>
<p>13日 (水)</p> <p>箴言 4章</p>	<p>「わたしの言葉をお前の心に保ち／わたしの戒めを守って、命を得よ。わたしの口が言い聞かせることを／忘れるな、離れ去るな。知恵を獲得せよ、分別を獲得せよ」(4～5節)。主の知恵は、礼拝でも家庭でも語り伝えられている。主の言葉を心にいただくとき、それは私たちの命となり、体を支えてくれる。主は命の源である心を守れと語りかけてくださる。</p>

聖書日課 『からし種』 2021.1.10-1.17

<p>14日 (木)</p> <p>箴言 5章</p>	<p>「あなた自身の井戸から水を汲み／あなた自身の泉から湧く水を飲め。その源は溢れ出て／…流れができるであろう。」(15～16節)。主は知恵を私たちの内に注ぎつけてくださる。それは「わたしが与える水を飲む者は決して乾かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」(ヨハネ4・14)というキリストに繋がってるのだらう</p>
<p>15日 (金)</p> <p>箴言 6章</p>	<p>「わが子よ、父の戒めを守れ。母の教えをおろそかにするな。…戒めは灯、教えは光。懲らしめや諭しは命の道。」(20～23節)。共同体の中で語り継がれる主の教えの数はとも多いが、それを心に結びつけ、首に巻きつけるならば、主がくださる命のすべての時を、主の知恵と共に生きることができののだらう。</p>
<p>16日 (土)</p> <p>箴言 7章</p>	<p>「わが子よ、わたしの言うことを守り／戒めを心に納めよ。戒めを守って、命を得よ。わたしの教えを瞳のように守れ。それをあなたの指に結び、心の中の板に書き記せ」(1～3節)。主の知恵は無意識に瞬きをするように、私たちの内に吹き入れられているのだらう。しかし無意識の宝物ではなく、その言葉を自分のものとして意識していただくことができますように</p>
<p>17日 (日)</p> <p>箴言 8章</p>	<p>「銀よりもむしろ、わたしの諭しを受け入れ、精選された金よりも、知識を受け入れよ。知恵は真珠にまさり、どのような財宝も比べることはできない」(10-11節)。神のもとにある深い知恵／真理が私たちを生かす。その深い知恵はイエス・キリストという方の人格にあらわされた。今朝、銀や金よりもまず第一に求めるべきものを主の日の礼拝でいただいでいこう。</p>